

安寧社会共創イニシアチブ

An-nei Community Co-creation Initiative (An-Co あんこ)

一般社団法人（10月設立予定）へのご入会のご案内

2024年7月

安寧社会共創イニシアチブ準備チーム

(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野 + 千葉大学予防医学センター)

呼びかけ人（理事就任予定者）

京都大学大学院医学研究科社会疫学分野 教授 近藤尚己

千葉大学予防医学センター 特任教授／医療経済研究機構研究部長 近藤克則

千葉大学予防医学センター 健康都市・空間デザイン学分野 准教授 花里真道

宇沢国際学館 代表取締役 占部まり

設立の背景

不確実性がこれまでになく高まっている現在、ウェルビーイングが満たされる安寧な社会を実現するためには、これまで以上に真摯な態度と協力、そして革新的なアイデアが必要になっています。

自然資本（地球環境）、文化資本、社会関係資本（ソーシャルキャピタル）、社会基盤（都市空間・インターネット・仮想現実技術など）——これらにはすべて、私たちが安寧な未来を築くために不可欠な「社会的共通資本」といえます。「お金」で評価される経済資本のみを基準とする社会システムから脱却し、多様な資本の形態が測定され、正当に価値づけられ、健全に育成され、そして活用される社会を目指すべきです。

そのためには、ソフトとハードのシステム、情報、マネタイズ、効果評価などを含む総合的なアプローチが必要です。また、市民、公益団体、民間事業者、行政機関、医療や福祉の関連機関、学術機関など様々なセクターの参加が求められます。

このたび、“安寧社会の共創”を目指す組織——技術、デザイン、評価のプロセスを構築・推進するプラットフォーム「安寧社会共創イニシアチブ」の設立をここに宣言し、皆様のご参加を呼びかけます。

コンセプト

人、コミュニティ、地球のウェルビーイングの最大化をめざす、
技術、デザイン、評価のプロセスを構築・推進するプラットフォーム

文化的処方・
社会的処方の推進

健康まちづくりの
デザインと実装

社会的共通資本の
再構築

産学官による“健康まちづくり”の標準モデルの構築、インパクト評価指標の確立等

PHS/SIB、PPP等による社会実装・自走

文化的処方・社会的処方とは 文化芸術活動や日常的な様々な活動を通して、人々のウェルビーイングを維持・向上や潜在能力を発揮するために必要なリソースとつなげる処方を指す。

社会的共通資本とは 世界的な経済学者宇沢弘文氏が提唱した経済理論で人々のウェルビーイングを維持・向上や潜在能力を発揮するための基盤となる自然環境、公共交通や通信などの社会インフラ、教育や医療・福祉などの制度を指す。

活動の枠組み

主たる活動として、分科会、セミナー、情報発信を実施します。メンバーの関心や取組みにあわせて柔軟な活動を推進していきます。メンバー同士の交流や意見交換の機会を重視します。

活動の枠組み	目的	具体的なアクション
1) 分科会	<ul style="list-style-type: none">安寧社会共創のコンセプトの理解、拡張各テーマに応じた知見・情報（先端的取組み、実証段階での取組み、成功例や失敗例など）の収集や共有各テーマに関心をもつ他業種企業や個人とのネットワーク民間事業者や学術機関が保有するソリューションや分析技術の共有、認知度向上	<ul style="list-style-type: none">概ね1～2カ月に1回ペースでの分科会
2) セミナー	<ul style="list-style-type: none">安寧社会共創のコンセプトの理解関連する多様な取組みや視点への理解メンバー各々の活動や事業へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none">年4回程度（京都2回、東京2回）のセミナー、外部識者のインプットレクチャーと、メンバーの活動報告で構成
3) 情報発信	<ul style="list-style-type: none">安寧社会共創のコンセプトの発信新たな賛同者・メンバーの勧誘メンバー同士のマッチング・連携の推進	<ul style="list-style-type: none">プレスリリースホームページやメールマガジン見本市や学会での展示
4) コンサルティング	<ul style="list-style-type: none">メンバーの事業に対する個別コンサルティング、アカデミアとの共同研究実施までのアドバイス	<ul style="list-style-type: none">事務局で要望を受け入れ、メンバー、アドバイザーと相談

分科会のイメージ

分科会は幹事企業を中心として、アカデミアがサポートする形で分科会ごとに運営されます。発足時は下記の5分科会が想定されています。

カテゴリ	目的	概要	幹事企業	サポートアカデミア
文化的・社会的処方開発部門	1) プログラム開発分科会	• 文化活動を文化的処方から評価し、より良質な社会関係資本を醸成するための改善策を検討します。	(検討中)	近藤尚己 (京都大学)
	2) 技術開発分科会	• 文化的処方を普及し、成果を評価するためのテクノロジーおよびシステムの検討を行い、効果的なプラットフォームやツールの構築に取り組みます。	(検討中)	近藤尚己 (京都大学)
	3) ELSi分科会	• 技術やシステムの導入に伴う倫理的、法的、社会的な影響を評価し、適切なガイドラインや規制の策定を支援します。	(検討中)	近藤尚己 (京都大学)
デザイン・実装部門	4) 空間デザイン分科会	• 具体的な開発フィールドで、健康まちづくりのハード開発・実装策を検討します。リビングラボを活用して実証実験を推進します。	(検討中)	花里真道 (千葉大学)
	5) 評価システム分科会	• 健康まちづくりの評価手法を検討します。国内で実施されている、SIB・PFSプロジェクトの評価の方法論および評価結果について検討します。	(検討中)	近藤克則 (千葉大学)

会員別プラン・会費のご案内

会員は産官学からの参加を期待しております。“健康まちづくり”の標準モデルの構築、インパクト評価指標の確立等に向けて、会員からの各種リソースとの協創を分科会を通じて社会実装と評価を進めます。また、その成果はセミナーや各種情報発信を通じて社会に喧伝します。加えて、会員には個別コンサルティング、アカデミアとの共同研究実施までのアドバイスをを行います。

会員種別	会費（税別）	会員向けサービス（会員共通）
企業会員	1口5万円：5口以上 中小企業（資本金1億円未満）は2口以上 スタートアップ（設立3年以内）は1口以上	1. 分科会・セミナーへの参加 ✓ 分科会の主宰 ✓ 知見・情報の収集 ✓ 会員間（企業・アカデミア）での交流 ✓ 研究テーマへの参加
関係団体会員	保健、医療、医療・介護保険及び福祉、文化、芸術、まちづくりに関する活動を行う団体、地方公共団体、学術機関等 1口5万円：1口以上 (地方公共団体・学術機関は無料)	2. 共同研究・マッチングの支援 ✓ 共同研究に向けた相談の機会が受けられるマッチング
個人会員	1口1万円：1口以上	3. データを活用した自社研究の推進 ✓ データを有する千葉大学等との共同研究契約が必要 4. 情報の発信 ✓ コンソとの共同プレスリリースの発信 ✓ コンソーシアムが主導する情報発信（学会・見本市等での出展展示、各種ウェブサイト等） ✓ コンソーシアム会員向けプレゼンテーションの機会提供

入会・お問い合わせ

当団体の設立趣旨に賛同し、その活動にご参加いただける企業・団体等の皆さまは、QRコードのフォームより、連絡先をご登録ください。入会手続きの準備ができ次第、事務局からご連絡を差し上げます。

その他、当団体の活動に関するお問い合わせ、取材の申し込み等についても、フォームよりお願いします。



安寧社会共創イニシアチブに関する資料は、下記よりダウンロードください。

<https://opera.cpms.chiba-u.jp/anco/>

安寧社会共創イニシアチブ

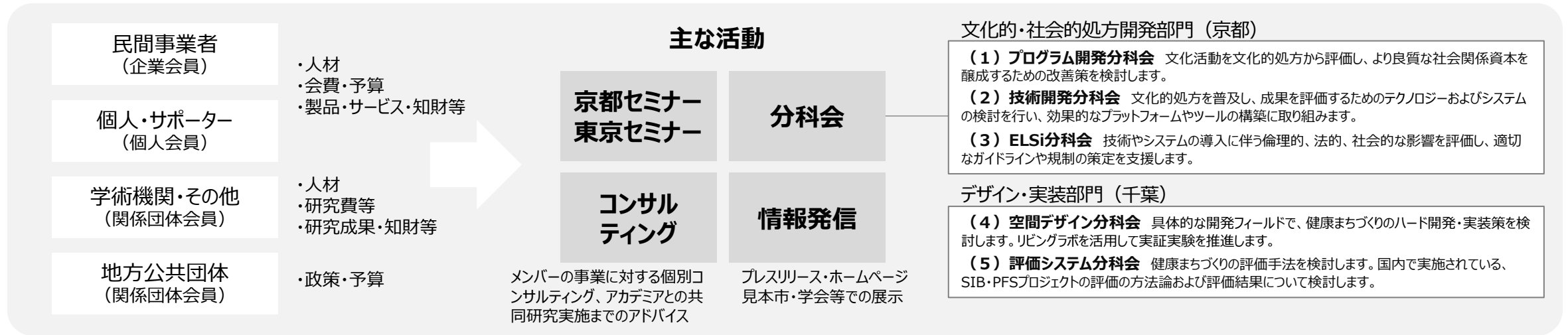
An-nei Community Co-creation Initiative (An-Co あんこ)

人、コミュニティ、地球のウェルビーイングの最大化をめざす、技術、デザイン、評価のプロセスを構築・推進するプラットフォーム

文化的処方・社会的処方の推進

健康まちづくりのデザインと実装

社会的共通資本の再構築



様々な活動の社会的処方化 持続可能なビジネスモデル

空間・場のデザイン 評価システムの開発

産学官による“健康まちづくり”の標準モデルの構築、インパクト評価指標の確立等

PHS/SIB、PPP等による社会実装・自走

文化的処方・社会的処方とは 文化芸術活動や日常的な様々な活動を通して、人々のウェルビーイングを維持・向上や潜在能力を発揮するために必要なリソースとつながるネットワークを指す。

社会的共通資本とは 世界的な経済学者宇沢弘文氏が提唱した経済理論で人々のウェルビーイングを維持・向上や潜在能力を発揮するための基盤となる自然環境、公共交通や通信などの社会インフラ、教育や医療・福祉などの制度を指す。